

初代藩主水野勝成入封400年記念

福山名所コンサート

ふくやま などころ



第5回 田島 横島

2019年11月10日(日) 13:30~15:00

会場：福山市うつみ市民交流センター

お話「水野勝成と内海のかかわり」

宮本住逸 (福山市文化財保護審議会 委員)

能と琵琶のコンサート

大島 政允 (能楽シテ方 喜多流)

大島 衣恵 (能楽シテ方 喜多流)

- ・紙芝居「福山」
- ・謡ってみよう「福山」
- ・仕舞「八島」
- ・仕舞「羽衣」

川嶋 信子 (薩摩琵琶 鶴田流)

- ・平家物語より
「祇園精舎」
「那須与一」他

主催／福山城築城400年記念事業実行委員会

共催／喜多流大島能楽堂 Tel 084-923-2633 <http://www.noh-oshima.com>

後援／福山文化連盟 福山喜多会

水野勝成と内海のかかわり

福山市文化財保護審議会委員 宮本住逸

① 矢の島 島原の乱平定のため出陣

所在地：内海町田島 寺山

1638年（寛永15）、幕府は水野勝成に対し、島原の乱平定のため出陣命令が下る。勝成このとき74才、嫡男勝俊と孫の伊織（勝貞）も出陣。福山藩総軍勢6344人の大部隊での出陣。福山の港を出船し、軍船船が田島の属島「矢の島」にさしかかった際、勝成、一句を詠んで、



▲源平古戦場 矢の島

武士の矢筈にかかるとは

矢種つきせぬ 軍かつなり 水野勝成

として、船上で自ら能「八島」を舞い、戦の門出を祝い、全軍の士気を鼓舞したと、古書に語り継がれている。（出典：「福山開祖 水野勝成」平井隆夫 1992年 新人物往来社）

② 水野神社（みずのおさん） 水野勝成の遺徳に報いるため建てられた天満のみずのおさん

所在地：内海町田島 天満

祭神は水野勝成、1698年（元禄11）の創建。願主は天満民衆

元和年間（1615～24）、田島村天満は早ばつや水害が続いて飢饉にみまわれて困窮していた時、藩主水野勝成に永代年貢十石を免除してもらったことに感謝し創建された。創建された元禄11年は、水野家がお家断絶の憂き目にあい備後の地を去った年である。天満の民衆は藩主水野勝成の遺徳に報いるため、一文講で建てられたと伝えられている。水野家、松平家から阿部家へ藩主が代わった後も、福山藩から庇護されており鬼瓦には阿部家家紋の違い鷹羽紋も座っている。



▲水野神社（内海町田島 天満）



▲臺股 立沢渦紋



▲鬼瓦 阿部家家紋 違い鷹羽紋

③ 常楽院 水野勝成が再興した村上海賊菩提寺

所在地：内海町田島 曾根



▲真言宗 常楽院



▲本堂欄間 沢渦紋

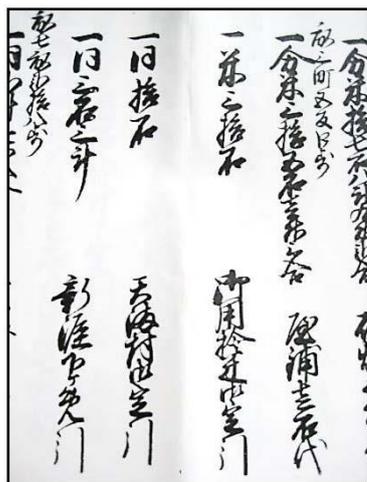
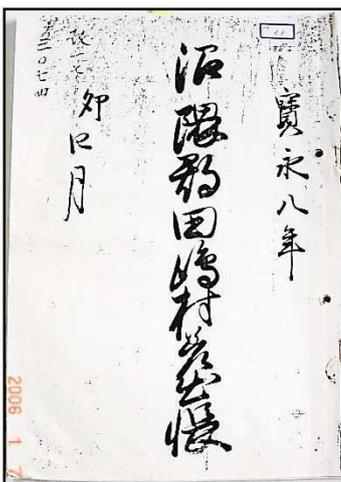


▲常楽院 山門

●瓦にみる水野家家紋の状況 (本堂・山門ほか)



●『沼隈郡田島村差出帳』



▲宝永8年(1711) 福山藩に提出された「田島村宝永差出帳」



▲横島村 本宮神社に残る樟木の切り株…福山城築城の際、神社の樟木50本が差し出されている。

明暦三年(1657) 福山藩 『領内仕置きにつき藩主覚書』より抜粋 (部分)

田島横島村より、毎年平戸へ鯨船に雇われ参り候、この人数、年によって百六七十人も参り候。当酉年には、百六十二人ほども参り候。しかる所に毎年六月より翌年四月迄は領内人減り、右の人数「浦水主」のためにも人不足にて悪しく候故、往々は平戸へこれものども、参らず様心がけ候、…後略
文面の意味

田島・横島村より、毎年平戸へ鯨船に雇われ出稼いでいるが、その人数は今年の酉年には162人ほども出かけている。これは藩として浦水主を仰せ付けている手前、見過ごすことはできない。

広報うつみ N0152~272 (平成5年4月号~平成15年1月最終号)

ふるさとの歴史探訪 NO.1~118

兼田明昌 著 (元 内海町教育委員会 社会教育課・郷土史文化財係)

ふるさとの歴史探訪 71 (内海町全域)

古歌に詠まれたわがふるさと より抜粋

送 松子厚帰 田島(菅茶山 作)
葦陽城外進潮周
丹葉経霜照墓秋
孤客去帆望裡小
寒烟落日緑蓑洲



空から見る 田島・横島

へたて行く 八重の汐路の 浦島や
箱のみ崎の 名こそしるけれ

(鹿苑院准后義満・厳島詣)

千年経ん 君が齡は 藤波の
松の枝にも かかりぬるかな

(大納言隆季)

思ひきや 田島が崎に 浮きねして
浪にかたぶく 月を見んとは

(伊達侍従秀宗朝臣・慶長年中)

行く船は 豎横島の 瀬戸なれや
かすみの糸に おれるしら浪

(十返舎一九・厳島参詣記)



夕日の内海大橋